

「Mother to Mother SHIONOGI Project」と長崎大学

「Mother to Mother SHIONOGI Project」は、塩野義製薬のグループ会社であるシオノギヘルスケアが発売する総合ビタミン剤「ポポン®S」シリーズの売り上げの一部と、シオノギグループの全社員からの募金により運営されているプロジェクトで、同社からの寄付金を受けた国際 NGO（非政府組織）のワールド・ビジョンが母体となり実施されている母子保健事業です。ケニア南西部にあるナロク県のマサイ族のコミュニティであるイララマタク地域において、2015年10月から展開されています。

アフリカでは、命を落とす妊産婦が日本の77倍にも上るという世界保健機関（WHO）の報告もありますが、このプロジェクトでは、同社が販売する日本のお母さんの健康を応援する製品の売り上げの一部を、ケニアのお母さんの健康へと繋げるという思いから、同社では「Mother to Mother SHIONOGI Project」と名付けられました。

同プロジェクトでは、ワールド・ビジョンの主導の下、上下水道などの社会インフラがなく、衛生環境が劣悪な中で生活をしており、妊産婦や子どもが医療サービスを十分に受けられていない地域において、診療所での医療サービスの提供や巡回診療の実施、医療従事者のトレーニング、住民への啓発活動などを行い、医療アクセスの向上および母子の健康改善・増進に取り組むことを目的としています。

この「Mother to Mother SHIONOGI Project」の考え方に賛同し、長崎大学は、2018年1月より、本学熱帯医学研究所ケニアプロジェクト拠点が同プロジェクトに参加しています（2018年3月にワールド・ビジョンと科学的な活動の評価について契約）。栄養状態などの健康状態の把握や下痢症などの感染症の発生状況、またそれらの相互影響に関する調査をしています。

この調査により、清潔な水へのアクセス向上やトイレの設置、さらに衛生教育などの、個々の取り組み効果についての検証が可能となります。このように、長崎大学はコミュニティへの介入効果を科学的に評価する役割を担い、健康増進活動の評価とそのあり方について提言していきます。



一瀬客員教授（前ケニアプロジェクト拠点長）と Mother to Mother SHIONOGI Project
の関係者



プロジェクトのあるイララマタク地域

参考ウェブサイト

Mother to Mother SHIONOGI Project について

日：<http://www.shionogi.co.jp/company/csr/act/mtom.html>

英：<http://www.shionogi.co.jp/en/company/csr/activities/mtom.html>